

# 「第 1 回 セレンディピティ創造科学シンポジウム」 事業報告

## 【開催概要】

本専門委員会では、精密加工を中心とした生産加工・工作機械分野におけるセレンディピティの実像を科学的に分析することで偶然と必然の本質的な因果関係を解明し、セレンディピティの可能性を高める一般原理を構築・実装することを目標としています。そこでこのたび、セレンディピティに対する認識と理解を深める目的で、令和 6 年 10 月 15 日（火）午後に日本大学理工学部駿河台キャンパス 8 号館にて、「第 1 回セレンディピティ創造科学シンポジウム」を開催しましたので、その概要を報告します。

シンポジウムではセレンディピティの背景と実現の方法論について、砥粒加工学会、応用物理学会および日本機械学会を代表する 3 名の研究者にセレンディピティに係る原体験と持論をご披露頂くとともに、学会全体アンケート調査結果等に基づく本会のセレンディピティの特徴についてご紹介頂きました。

当日は、対面参加者 26 名、WEB 参加者 27 名のハイブリッド形式により、千葉大学・森田昇氏（本会委員長）の開会挨拶で始まりまして、ついで、4 名の講演者から示唆に富む興味深い話題が提供され、大阪大学・榎本俊之氏（本会副委員長）の司会のもと活発な討論がなされました。最後に金沢工業大学・諏訪部仁氏から閉会挨拶があり、盛会裏に終了しました。以下にシンポジウムの詳細を報告します。



司会の榎本先生

## 【シンポジウムプログラム】

司会（副委員長）：大阪大学 榎本 俊之 氏

13:00～13:05	開会挨拶（委員長）	千葉大学 森田 昇 氏
13:05～13:55	講演 1 「セレンディピティの実現のための認識と人材育成」	埼玉大学 池野 順一 氏
13:55～14:45	講演 2 「違和感の検出感度の高い人はリスクもチャンスも見つけられる」	東京大学／産業技術総合研究所 中尾 政之 氏
15:05～15:55	講演 3 「新・偶然を呼び寄せてセレンディピティを發揮するには」	物質・材料研究機構 轟 眞市 氏
15:55～16:45	講演 4 「アンケートから読み解く精密加工技術分野のセレンディピティとコンピテンシー」 (ご参考) アンケート結果 URL : <a href="https://www.jsat.or.jp/subcommit/11/questionnaireresults">https://www.jsat.or.jp/subcommit/11/questionnaireresults</a>	千葉大学 森田 昇 氏
16:45～17:15	総合討論（ディープディスカッション） & 名刺交換会	講演者・参加者全員
17:15～17:20	閉会挨拶（副委員長）	金沢工業大学 諏訪部 仁 氏

## 【講演概要】

池野順一氏は、「セレンディピティの実現のための認識と人材育成」と題して講演されました。最初にセレンディピティに対する自身の認識を述べた後、大学時代に恩師から受けた研究教育（レーザ加工）、その後の 3 大学でのセレンディピティな研究体験（研磨加工ほか）、そしてセレンディピティな偉人達の言葉を挙げての自身の人材教育論や「好奇心、認知力をもって、観察力と洞察力を磨く教育をすればよい」という持論を展開されました。非常に示唆に富んだ楽しいお話でした。



講演中の池野先生

中尾政之氏は、「違和感の検出感度の高い人はリスクもチャンスも見つけられる」と題して講演されました。最初にセレンディピティを逃がさないために学生に普段指導していることを述べた後、失敗のリスクと成功のチャンスを見逃さないための違和感の検出感度の磨き方、そして生成系 AI で面白い設計解を見つけるための Abduction（仮説生成）能力の必要性と最適解への導き方について、自身の研究事例に基づいて詳解されました。大変機知に富んだ斬新なお話でした。



講演中の中尾先生

轟眞市氏は、「新・偶然を呼び寄せてセレンディピティを発揮するには」と題して講演されました。最初に自身に偶然をもたらしてくれた三者(己・人・天)の寄与率を主観的に分析するための独自の三角図「采配の三角形」について詳解の後、三者(己・人・天)を有機的に結び付けるために有効なプレゼンテーションの型 (Rule of Three ほか) と研究紹介ビデオの作成／成果公開方法 (YouTube ほか) について、実例を挙げて詳解されました。聴講の皆さんはとても興味深く聞き入っていました。本講演内容は、会誌 10 月号から隔月で 3 回に分けて連載されます。



講演中の轟先生



講演中の森田先生



閉会挨拶の諏訪部先生

森田昇氏は、「アンケートから読み解く精密加工技術分野のセレンディピティとコンピテンシー」と題して講演されました。最初にセレンディピティの核心と実像の類型化について詳解の後、当該分野のセレンディピティの実態、セレンディピティの質的定量評価、さらに ChatGTP と KJ 法を併用したセレンディピティのためのコンピテンシーと組織マネジメントの優先事項について、アンケート結果に基づいて詳解されました。最後に、限られた人材でも知的生産性の持続的向上をもたらす、生成系 AI によるセレンディピティの能動的共創の可能性について述べられました。

4 つの講演を聴講した皆さんは、自身の経験に照らし合わせてセレンディピティに対する再認識と多面的な理解を深められたように拝察され、今回のシンポジウムは概ね好評のようでした。次回もご期待ください。

(文責・幹事 松坂壮太 (千葉大学) )



シンポジウムの全体風景

 公益社団法人 砥粒加工学会  
The Japan Society for Abrasive Technology

 SCNet

セレンディピティ創造科学ネットワーク専門委員会  
URL: <https://www.jsat.or.jp/subcommit>



以上